

平成 2 8 年三重県議会定例会 健康福祉病院常任委員会

説 明 資 料

【 所 管 事 項 説 明 】

	頁
1 三重県病院事業 中期経営計画 平成 2 7 年度の取組成果について	1
2 平成 2 7 年度病院事業決算の概要について	11

平成 2 8 年 6 月 2 2 日
病 院 事 業 庁

1 三重県病院事業 中期経営計画 平成27年度の取組成果について

病院事業庁では、県立病院に求められている役割・機能等を十分に踏まえつつ、国、県の医療政策の動向や県立病院を取り巻く環境の変化に的確に対応しながら、病院事業の経営を中期的な観点から計画的に推進し、それぞれの県立病院が県民の皆さんに医療サービスを安定的かつ継続的に提供していくため、「三重県病院事業 中期経営計画（平成25年度～平成27年度）」を平成25年3月に策定しています。

なお、当該計画は、現在、地域医療構想や一志病院のあり方が検討されている状況にあることから、計画期間を1年間延長しており、新しい中期経営計画は平成28年度中に策定します。

「三重県病院事業 中期経営計画（平成25年度～平成27年度）」については、その着実な推進を図るため、計画期間中の各年度における具体的な取組を掲げる「年度計画」を策定しています。

「平成27年度 年度計画」については、その達成に向けて、過去2か年の取組成果や課題等を踏まえながら、必要となる取組を推進し、県民の皆さんに安全で良質な医療サービスを安定的かつ継続的に提供することを念頭に置いて策定しています。

＜ 平成27年度の病院別の取組成果 ＞

こころの医療センター

平成27年度の取組方向

平成27年度は、国の精神科医療における「入院医療中心から地域生活支援中心へ」という流れの中で、こころの医療センターが、これまで推進してきた病院機能の再編について、外来診療機能の強化を図るとともに、アウトリーチサービスとしての訪問看護や、デイケア、作業療法といった日中活動支援などによる地域生活支援をより一層充実させるべく取組を進めます。

また、精神科救急・急性期医療などの政策的医療および精神疾患に悩む若者に対する早期介入・早期支援やアルコール依存症治療、認知症治療などの高度先進医療にも積極的に取り組みます。

【所管事項説明】

目標と実績

目 標 項 目 (丸数字は、P3～5 の関係記述番号)		H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度
		目 標 実 績	目 標 実 績	目 標 実 績	目 標
精神科救急患者数	①	210 人 221 人	220 人 212 人	230 人 232 人	230 人
看護実習等受入人数	②	2,350 人 2,067 人	2,200 人 2,074 人	2,350 人 2,241 人	2,200 人
人材育成研修開催数 (院内研修センター実施分)		1 回 1 回	1 回 1 回	2 回 2 回	2 回
訪問看護件数	③	3,750 件 3,751 件	4,550 件 4,537 件	5,350 件 4,837 件	5,000 件
長期入院患者（5 年超）退院数	④	10 件 7 件	8 件 4 件	6 件 6 件	4 件
地域精神保健医療体制検討会 開催数	⑤	1 回 0 回	1 回 設置	1 回 1 回	2 回
こころしっとこセミナー件数	⑥	21 件 18 件	23 件 25 件	25 件 38 件	28 件
早期介入対応件数	⑦	165 件 206 件	195 件 213 件	200 件 213 件	200 件
アルコール病棟入院患者数	⑧	32.0 人/日 35.6 人/日	38.0 人/日 32.2 人/日	37.0 人/日 27.4 人/日	37.0 人/日
認知症治療病棟入院患者数	⑨	43.0 人/日 36.7 人/日	44.0 人/日 38.8 人/日	40.0 人/日 38.1 人/日	40.0 人/日
重度療養患者医療体制構築	⑩	検討 検討	検討 構築	実施 5 人	4 人
経常収支比率	⑪	100.7% 100.1%	105.8% 102.0%	103.8% 101.6%	101.0%
外来患者数		262.0 人/日 253.0 人/日	270.0 人/日 260.1 人/日	280.0 人/日 254.8 人/日	280.0 人/日
延べ入院患者数		115,340 人 107,910 人	115,340 人 102,748 人	109,800 人 101,950 人	109,500 人
医療倫理委員会開催数	⑫	1 回 9 回	9 回 1 回	2 回 3 回	2 回
医療安全研修参加率		81.5% 82.4%	83.0% 90.6%	85.0% 91.3%	90.0%
患者満足度（※）	⑬	82.0% 71.3%	83.5% 75.8%	85.0% 74.9%	89.7%

※H27 年度までは、「当院を親しい友人等へ紹介しますか」という設問に対する肯定的な回答割合により算出していましたが、H28 年度からは、「当院の診療に満足していますか」との設問に対する肯定的な回答割合により算出します。

平成27年度の取組成果

（精神科医療の中核病院としての取組）

- ①三重県精神科救急医療システムの支援病院として、休日・時間外などの救急患者の受入れに対応するとともに、自傷・他害のおそれがある場合に実施する措置鑑定診察の要請に対しても、積極的に受入れを行いました。
- ②県内の精神科医療水準の向上のため、初期研修医・看護実習生等の受入れ依頼に対して積極的に対応するとともに、院内の医師や看護師等の専門性を向上させる研修を実施しました。

（地域生活支援体制の充実に向けた取組）

- ③外来患者の地域生活を支援するため、訪問看護を積極的に推進しました。さらに、日中活動を支援するためのデイケアや作業療法の充実に向け、プログラムの見直しを進めるとともに、新たなデイケア施設の整備（旧東2病棟を改修）に着手しました。
- ④長期入院患者の地域移行が可能となるよう、市町、障がい福祉サービス事業所などの関係機関と連携し、院外のデイサービスの体験利用や就労作業所の体験実習などの支援を進めました。
- ⑤関係機関の多職種が連携し、精神障がい者の地域生活を効果的に支援するため、医療機関や社会福祉協議会、障がい者就労支援団体、作業所、家族会等による「地域精神保健医療体制検討会」において、各団体の取組や課題について情報共有を行うとともに、精神障がい者の支援に関する研修会を開催しました。
- ⑥精神障がい者や精神疾患に対する正しい理解を広めるため、教育機関や各種団体等へ講師を派遣して実施する出前講座「こころしつとこセミナー」について、積極的に対応（H26年度25件→H27年度38件）しました。また、病院と地域住民との交流の場づくりとして「こころしつとこ祭」を院内で開催（参加者約480名）しました。

（高度・先進医療の取組）

- ⑦精神科における「早期発見・早期支援・早期治療」を推進するため、院内に設置している「ユース・メンタルサポートセンターM I E（YMSC-MIE）」の運営を通じて、精神疾患に悩む若者やその家族等に対するきめ細やかな支援を行うとともに、教職員や保護者、生徒を対象とした研修会や継続的な連携・情報共有のための会議等を開催しました。
- ⑧アルコール依存症治療については、充実した治療プログラムを提供しました。また、「第26回日本アルコール看護研修会三重大会」を当院で開催（参加者約200名）し、アルコール依存症治療に携わる看護師の資質向上等に貢献しました。
- ⑨認知症に対しては、専門的医療の提供とともに、家族等からの認知症相談などを行う「認知症疾患医療センター」として、認知症相談（474件）や保健・医療・福祉等の関係者を対象とした認知症に関する研修会を開催（参加者約170名）しました。

【所管事項説明】

- ⑩統合失調症において、標準的な医療を長期間提供しても改善が認められない患者（重度療養患者）に対して、緊急時に大学附属病院との連携により対応できるよう調整した上で、専門的な治療（治療対抗性統合失調症治療薬の投薬）を提供しました。

（経営の健全化に向けた取組、業務改善に向けた取組）

- ⑪延べ入院患者数が減少したものの、急性期の患者を積極的に受入れたことなどによる医業収益の増加により、経常損益は前年度に引き続き黒字を確保することができました。
- ⑫患者や家族の方々の視点に立った医療を安全に提供するため、医療倫理や医療安全に関する院内研修会を開催するなど、職員の意識・知識の向上等に努めました。
- ⑬患者満足度が向上するよう、接遇研修会を開催するとともに、患者の皆さんの意見等を踏まえ、空調の弾力的な運用や外来待合所のテレビ増設、書籍の充実など院内環境改善を図りました。

平成27年度の残された課題と今後の方向性

（精神科医療の中核病院としての取組）

- ①三重県精神科救急医療システムの支援病院として、引き続き、救急・急性期患者の受入れ等において、中心的な役割を担っていきます。
- ②県内の精神科医療水準の向上のため、引き続き、初期研修医や看護実習生等を積極的に受け入れるとともに、医師や看護師等の専門性の向上のため、院内研修会の充実に努めていきます。

（地域生活支援体制の充実にに向けた取組）

- ③訪問看護の一層の充実に向け、今後は、多職種または複数の看護師による対応等を通じて看護の質の向上を図っていくとともに、新たなデイケア施設の供用開始（H29年度）に向けたプログラムの充実など必要な準備を進めていきます。
- ④長期入院患者の社会復帰が可能となるよう、引き続き、関係機関との連携を進めていきます。
- ⑤地域精神保健医療体制検討会の開催を通じて、関係機関の多職種との連携を強化しながら、多様な精神疾患に関する課題や支援のための取組を検討していきます。
- ⑥精神障がい者や精神疾患に対する正しい理解を広めるため、引き続き、出前講座「こころしっとこセミナー」を積極的に実施していきます。

（高度・先進医療の取組）

- ⑦精神疾患の症状に悩む若者を早期に支援するため、引き続き、「ユース・メンタルサポートセンターM I E（YMSC-MIE）」の活動として、関係機関と緊密に連携しながら、相談対応とともに、きめ細やかな支援を行っていきます。

【所管事項説明】

- ⑧アルコール依存症治療においては、一般病院で治療を受けている患者が、当院の専門的な治療を受けることができるよう、一般病院との病・病連携に取り組んでいきます。
- ⑨認知症に対する専門的医療を提供するとともに、「認知症疾患医療センター」として、家族等からの相談対応や研修会を実施するなど、本県における認知症の拠点施設としての役割を担っていきます。
- ⑩統合失調症の重度療養患者に対する専門的な治療を引き続き提供していきます。

（経営の健全化に向けた取組、業務改善に向けた取組）

- ⑪新規患者や他の医療機関からの紹介患者が増加するよう、病・診連携を一層推進していくとともに、デイケア、作業療法のプログラムの充実等により、外来患者の増加につなげていきます。また、適切な病床運用による効率的・効果的な治療を進めることにより、入院収益の確保につなげていきます。
- ⑫患者や家族の方々の視点に立った医療を安全に提供するため、引き続き、医療倫理や医療安全に関する院内研修会を開催するなど、職員の意識・知識の向上等を図っていきます。
- ⑬患者満足度を向上させるため、引き続き、患者の皆さんの意見等を病院運営に生かしていきます。

一 志 病 院

平成 27 年度の取組方向

平成 27 年度は、これまで一志病院が推進してきた「地域に最適な包括的で全人的な医療の体制づくり」に必要な多職種連携の取組を定着させるとともに、取組への住民参画を促進します。

また、家庭医（総合診療医）を中心とした家庭医療を地域の皆さんに提供するとともに、家庭医療に携わる医師、看護師等の人材育成を進めます。

目標と実績

目 標 項 目 (丸数字は、P7～8 の関係記述番号)		H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度
		目 標 実 績	目 標 実 績	目 標 実 績	目 標
家庭医療等外来患者数 (予防医療受診者等を含む)	①	105.0 人/日 105.4 人/日	109.0 人/日 104.7 人/日	113.0 人/日 103.0 人/日	113.0 人/日
住民健診・がん検診受検者		1,250 人 1,196 人	1,180 人 1,300 人	1,250 人 1,480 人	1,300 人
訪問診療、訪問看護、訪問リハ ビリテーション等延べ患者数		3,210 人 3,219 人	3,240 人 3,424 人	3,270 人 3,657 人	3,400 人
へき地診療所への代診医派遣 回数		— —	— —	— 4 回	5 回
救急患者受入件数	②	966 人 1,065 人	1,000 人 1,182 人	1,000 人 1,308 人	1,000 人
地域に最適な医療の体制づく り参加機関数	③	11 者 11 者	13 者 14 者	15 者 15 者	16 者
初期研修医・医学生受入人数	④	43 人 48 人	49 人 44 人	49 人 57 人	49 人
看護実習等受入率	⑤	100.0% 100.0%	100.0% 100.0%	100.0% 100.0%	100.0%
学会、研修、カンファレンス等 の参加率	⑥	100.0% 100.0%	100.0% 100.0%	100.0% 100.0%	100.0%
学会発表・論文発表件数	⑦	5 件 20 件	14 件 28 件	20 件 35 件	20 件
経常収支比率	⑧	97.6% 102.8%	100.0% 102.5%	100.0% 103.1%	103.5%
材料費、経費対医業収益比率		54.2% 48.2%	50.4% 46.8%	48.5% 46.3%	46.5%
診療報酬検討会開催回数	⑨	12 回 12 回	12 回 12 回	12 回 12 回	12 回
患者満足度 (※)	⑩	83.0% 81.2%	84.0% 75.0%	85.0% 83.7%	96.6%

※H27 年度までは、「当院を親しい友人等へ紹介しますか」という設問に対する肯定的な回答割合により算出していましたが、H28 年度からは、「当院の診療に満足していますか」との設問に対する肯定的な回答割合により算出します。

平成27年度の実績成果

(家庭医を中心とした地域医療の取組、地域に最適な包括的で全人的な医療の体制づくり)

- ①家庭医を中心とした全人的な医療サービスとして、病気の治療だけでなく、住民健診やがん検診といった予防医療、訪問診療や訪問看護といった在宅療養支援を積極的に提供するとともに、健康教室（11回）や糖尿病教室（10回）、出前講座（18回）を開催しました。また、へき地医療拠点病院として、県内のへき地診療所へ代診医の派遣（4回）を行いました。
- ②初期救急医療を担う医療機関として、24時間365日の救急受入態勢を維持し、白山消防署との救急ホットライン（医師との直通電話）や近隣診療所等との外来ホットライン（看護師長との直通電話）を活用しながら、迅速に多くの救急患者を受入れました。また、白山消防署の救命救急士とともに「三重メディカルラリー2015」に参加し、救急搬送時の技術向上を図りました。
- ③医師・看護師やケアマネジャー・社会福祉士、保健師・市職員など医療、福祉、保健の多職種による課題検討会「白山・美杉顔の見える会」や、在宅ケアをテーマとしたシンポジウム「白山・美杉在宅ケアみんなで考えるつどい」の開催を通じて、地域住民の地域医療等に対する意識の向上や関係者の一体感の醸成を図りました。

(地域医療を担う人材の教育)

- ④家庭医（総合診療医）育成拠点施設として、後期研修医（3人）、初期研修医（8人）、医学生（49人）を積極的に受入れるとともに、家庭医をめざす医学生等を対象とした家庭医療に関する専門的な研修の機会として「家庭医療プログラムエクスターンシップ in みえ2015」を三重大学との共催により開催（参加者33名）しました。
- ⑤地域看護に関心を持つ看護師等を育成するため、看護実習生等の受入れ依頼に積極的に対応するとともに、県立看護大学と「臨床能力に優れた質の高い看護職者の教育・育成等について連携協力を図るための協定」を締結し、講師の派遣を行いました。
- ⑥地域医療を担う医療従事者を育成するため、「病院が取り組む地域包括ケア研修会 IN 三重」を開催（参加者73名）し、在宅医療や地域包括ケアに先進的に取り組む県内外の医療機関と情報交換を行いました。また、勤務シフトの調整など研修に参加しやすい職場環境づくりに努めました。

(家庭医療、地域医療、医療教育に関する研究)

- ⑦院内の「研究やろう会」の開催（12回）等を通じて、研究に対する意欲の醸成に努めたことにより、学会等での研究発表や学術雑誌等への論文発表数が大幅に増加（H26年度28件 → H27年度35件）しました。

(経営の健全化に向けた取組、業務改善に向けた取組)

- ⑧外来患者数が減少したものの、入院患者数が増加し、医業収益が増額となったことなどにより、経常損益は前年度に引き続き黒字を確保することができました。

【所管事項説明】

- ⑨収益の確保を図るため、院内の「診療報酬検討会」の開催により、請求漏れの防止等に関する情報を共有するとともに、診療報酬上の新たな施設基準の取得につなげました。
- ⑩患者満足度が向上するよう、接遇に関する研修会の開催や接遇チェック表を活用した職員の自己点検の取組を進めるとともに、患者の皆さんの意見等を踏まえ、空調の弾力的な運用や外来待合所のテレビの増設、掲示物の充実など環境改善を行いました。

平成27年度の残された課題と今後の方向性

（家庭医を中心とした地域医療の取組、地域に最適な包括的で全人的な医療の体制づくり）

- ①家庭医を中心とした地域医療を推進するとともに、引き続き、住民健診等の予防医療や訪問診療等の在宅療養支援に取り組みます。また、へき地医療拠点病院として県内の医療過疎地域に対する代診医派遣を進めます。
- ②初期救急医療を担う医療機関として、引き続き、消防機関と緊密に連携しながら、24時間365日の救急受入態勢を維持していきます。
- ③地域において取り組んできた医療・福祉・保健の多職種連携の活動を定着化させるとともに、地域住民の一層の参画を促進していきます。

（地域医療を担う人材の教育）

- ④家庭医育成拠点施設として、研修医や医学生を積極的に受入れ、一志病院の診療圏をフィールドにした実践的な研修を行っていきます。
- ⑤地域看護に関心を持つ看護師等を育成するため、引き続き、看護実習生等を積極的に受入れるとともに、県立看護大学との連携協定に基づく人材育成の取組を推進していきます。また、こうした取組を通じて、職員一人ひとりの意識・知識の向上を図っていきます。
- ⑥医療従事者および事務職員が参加できる研修機会づくりおよび研修会等に参加しやすい職場環境づくりに、引き続き努めていきます。

（家庭医療、地域医療、医療教育に関する研究）

- ⑦研究に対する意欲をより一層醸成し、研究活動に対する職員の参加率を向上させていきます。

（経営の健全化に向けた取組、業務改善に向けた取組）

- ⑧医療サービスの充実等により、入院・外来患者や住民健診等受診者の確保に努め、収益の増加につなげていくとともに、材料費や経費等の費用の縮減を図り、一層の健全経営をめざしていきます。
- ⑨院内の「診療報酬検討会」を引き続き開催し、施設基準の新規取得等の検討を進めていきます。
- ⑩患者満足度を向上させるため、引き続き、患者の皆さんの意見等を病院運営に生かしていきます。

県立病院課

平成27年度の取組方向

各県立病院がそれぞれの役割および機能を十分に発揮し、県民に良質で満足度の高い医療を安定的、継続的に提供できるよう、医師、看護師の確保や各病院の経営改善の支援等に取り組みました。

目標と実績

目 標 項 目 (丸数字は、P9～10 の関係記述番号)		H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度
		目 標 実 績	目 標 実 績	目 標 実 績	目 標
常勤医師充足率	①	80.0%	90.0%	100.0%	100.0%
		84.8%	78.2%	85.3%	
看護師充足率		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
		100.0%	100.0%	99.6%	
情報提供数	②	2.0 件/月	2.0 件/月	2.0 件/月	2.0
		1.1 件/月	2.3 件/月	2.4 件/月	
能力向上にかかる研修参加回数		24 回	27 回	30 回	30 回
		26 回	28 回	36 回	
経常収支比率	③	100.1%	104.4%	102.9%	101.5%
		100.7%	102.1%	101.8%	
志摩病院 1 日平均入院患者数	④	218.5 人/日	220.0 人/日	229.5 人/日	245.0 人/日
		206.0 人/日	205.7 人/日	204.1 人/日	
志摩病院 1 日平均外来患者数		272.6 人/日	312.4 人/日	315.8 人/日	330.3 人/日
		301.9 人/日	307.9 人/日	317.6 人/日	

平成27年度の取組成果

(医師、看護師の確保)

①医師確保については、三重大学等への派遣要請を継続的に行うとともに、看護師確保については、看護師を養成する大学や専門学校等への積極的な訪問、病院独自の就職説明会の開催、合同就職説明会への参加を行いながら、随時募集を実施しました。また、医師や看護師の定着を図るため、学会等研修参加経費の支援や関係図書の整備を行うとともに、子育て支援制度の運用や院内保育所の運営など、医師や看護師にとって働きやすく魅力のある病院をめざした取組を進めました。

(経営の健全化および業務改善等)

②戦略的な経営を推進するため、病院事業庁長と各県立病院長（志摩病院を除く）等で構成する「病院事業庁経営会議」等を通じて、各病院の運営状況を的確に把握・分析し、企画提案を行うとともに、国、県の医療政策の動向等の情報を収集し、病院に提供しました。また、事務職員についても、経理、企画、医事、労務管理といった経営の健全化や安定化を図るための研修等に計画的に参加できるよう、職場環境づくりを進めました。

【所管事項説明】

- ③「病院事業庁経営会議」等を定期的に開催するとともに、各病院の経営会議に県立病院課職員が参加するなど各病院と連携を密にしながら、経営課題の解決を支援し、前年度に引き続き、経常損益の黒字につなげることができました。
- ④志摩病院のさらなる診療体制の回復に向け、病院運営に関する事項を協議するため、病院事業庁と指定管理者（公益社団法人 地域医療振興協会）の代表者等で構成する「志摩病院管理運営協議会」や毎月の業務報告書の聴き取り等を通じて、運営状況を詳細に把握し、課題等について協議・調整を行いました。また、志摩病院の医師を確保するため、三重大学に対する派遣要請を病院事業庁と指定管理者が合同で実施しました。さらに、志摩病院の運営状況の周知や地域の皆さんの意見等を病院運営に反映することを目的に、「地域の皆さんとの懇談会」を開催（参加者約 75 名）しました。

平成 27 年度の残された課題と今後の方向性

（医師、看護師の確保）

- ①医師や看護師を確保するため、引き続き、研修環境の充実や働きやすい職場づくりなど、医師や看護師にとって魅力のある病院をめざした取組を行うとともに、大学や養成機関等への積極的な P R を進めていきます。

（経営の健全化および業務改善等）

- ②「病院事業庁経営会議」等を中心に、病院事業庁と各病院が一体となって戦略的な経営に取り組んでいくとともに、経営面における専門性を向上させるための人材育成を進めます。
- ③経営の健全化および業務改善が図られるよう、引き続き、各病院との連携を密にしながら経営課題の解決を支援していきます。
- ④志摩病院の診療体制のさらなる回復が図られるよう、引き続き、「志摩病院管理運営協議会」等を通じて、効果的な連携および適切な指導・監督を行っていきます。

2 平成27年度病院事業決算の概要について

こころの医療センター、一志病院および指定管理者制度を導入した志摩病院の3病院の管理・運営を行った平成27年度の病院事業の決算は、収益的収支の経常損益について、7,200万円の黒字となりました。

なお、収益的収支及び資本的収支の全体概要等については、次のとおりです。

(1) 収益的収支

(単位：百万円、%)

	H26 年度	H27 年度	H27-H26	前年度比
① 病院事業収益 (A+B+C)	5,545	5,468	△ 77	98.6
医業収益 A	2,703	2,808	105	103.9
入院収益	2,102	2,189	87	104.2
外来収益	501	513	12	102.4
その他医業収益	100	106	6	105.9
医業外収益 B	2,842	2,618	△ 224	92.1
うち長期前受金戻入	265	253	△ 11	95.7
うち一般会計繰入金	2,300	2,088	△ 212	90.8
特別利益 C	—	42	42	—
② 病院事業費用 (D+E+F)	6,870	5,393	△ 1,477	78.5
医業費用 D	5,186	5,087	△ 100	98.1
うち給与費	2,583	2,699	116	104.5
うち材料費	251	247	△ 5	98.1
うち経費	1,704	1,504	△ 199	88.3
うち減価償却費	626	611	△ 14	97.7
医業外費用 E	286	267	△ 20	93.2
うち支払利息	157	145	△ 12	92.1
特別損失 F	1,397	40	△ 1,357	2.8
③ 経常損益 (A+B) - (D+E)	72	72	—	100.5
④ 純損益 (① - ②)	△ 1,325	75	1,400	—

※四捨五入のため、合計額等が合わない場合があります。

【所管事項説明】

＜参考１＞ 経常損益の病院別内訳

(単位：百万円、%)

	H26 年度	H27 年度	H27-H26	前年度比
こころの医療センター	64	50	△ 14	77.9
一志病院	22	27	6	126.5
志摩病院	△ 14	△ 5	9	—
合 計	72	72	—	100.5

※四捨五入のため、合計額等が合わない場合があります。

＜参考２＞ 患者数の状況

(単位：人／日、%)

	入院（１日平均）				外来（１日平均）			
	H26	H27	H27-H26	前年度比	H26	H27	H27-H26	前年度比
こころの医療センター	281.5	278.6	△ 2.9	99.0	260.1	254.8	△ 5.3	98.0
一志病院	33.7	36.1	2.4	107.0	88.4	87.5	△ 0.9	99.0
志摩病院	205.7	204.1	△ 1.6	99.2	307.9	317.6	9.8	103.2
うち一般病床、一般外来	116.3	115.8	△ 0.5	99.6	270.3	280.3	10.1	103.7
合 計	520.9	518.7	△ 2.2	99.6	656.4	659.9	3.5	100.5

※四捨五入のため、合計額等が合わない場合があります。

(２) 資本的収支

(単位：百万円、%)

	H26 年度	H27 年度	H27-H26	前年度比
① 資本的収入	1,415	1,442	27	101.9
企業債	297	310	13	104.4
国庫補助金	—	9	9	—
県費負担金	745	749	3	100.4
その他	22	24	2	107.6
短期貸付金返還金	350	350	—	100.0
② 資本的支出	1,819	1,821	2	100.1
病院増改築工事費	98	152	55	156.0
資産購入費	207	175	△ 33	84.3
企業債償還金	1,117	1,119	2	100.2
長期貸付金	7	1	△ 7	8.3
長期借入金償還金	40	25	△ 15	62.5
短期貸付金	350	350	—	100.0
資本的収支(① - ②)	△ 404	△ 379	25	—

※四捨五入のため、合計額等が合わない場合があります。